

中山間地域における移住・定住の方策を考える

～高知県梼原町を対象として～

1150423 澤 菜月

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

本研究では、高知県の西部にある梼原町をフィールドワークとし、中山間地域における移住・定住について考える。その結果、梼原町における有機栽培を目的とした定住の持続性について明らかにした。

2. 背景

現在、日本の農村地域は過疎化・高齢化が進行しそこでは共同活動や集落機能の維持に必要な人手が不足し次世代の確保が危ぶまれている。過疎化、高齢化問題は、耕作放棄地が増加することによる農業生活活動が停滞することにとどまらず、農村地域で安定した農業経営が成り立ちにくい一方で、農業以外の就業機会が少ないなど様々な問題を抱えている。この対策として、地域内外の若年層を中山間地域に移住・定住させる「若者定住促進事業」が全国各地の中山間地域で検討され実施に移されている。しかし、海士町での取り組みなど一部では成果も上げられているが、一方では人口減少が止まらない中山間地域が多く、就業の場の確保も大きな課題としてあげられている。中山間地域では第一次産業が主であり、「汚い・きつい・危険」の3K産業といわれている。(図1)

このことは、中山間地域が求めているニーズと、現在の若年層の求めているニーズとミスマッチが生じており、定住政策が成功しない要因となっている。この原因として、中山間地域に住むこと、一次産業で働くことを軽視して、イメージのみで中山間地域に住みたいという若年層の存在も一因だと考えられる。そこで近年、インターンシップにより、はじめに中山間地域の生活を体験させ、イメージと実際の生活とのミスマッチを減少させる取り組みが注目されている。この問題に対して梼原町では、オーガニックファーム梼原において、都市部住民に注目されている有機野菜の栽培方法を実践する場として、インターンシップを含む営農支援を実施し、その一部が梼原町に定住し現在に至っている事例がみられる。この梼原の事例を調査することは、中山間地域の活性化、ひいては移住者による人口増政策に回答することができる。

3. 目的

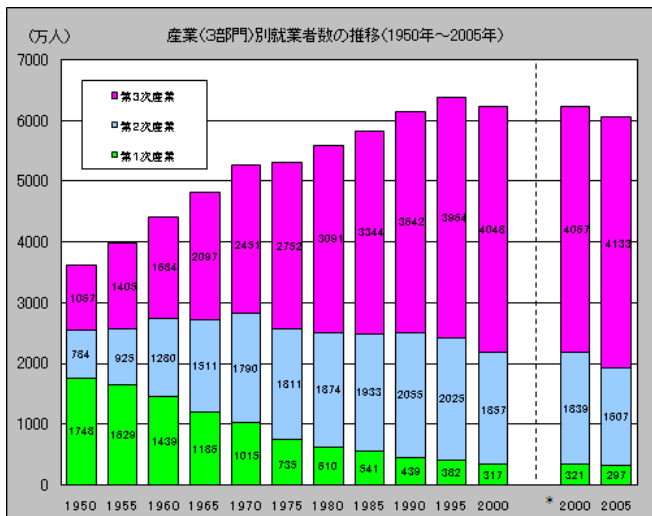
本研究の目的は、高知県西部にある梼原町の現状と課題を把握するとともに、梼原の事例を調査し、中山間地域における移住・定住者の実態を明らかにし、そこから定住持続要因について考察する。

4. 研究方法

はじめに都市部と中山間地域の共生として高知県の取り組みについて整理する。また、梼原町での取り組みや住環境・労働環境の面でのヒアリング調査から移住者の現状と課題を把握し移住・定住には何が必要か検証する。最後に、定住持続要因について明らかにする。

5. 既往研究の動向

図司(2013. 農村地域に向かう若者移住の広がり持続性に関する一考察)によると、若者の「地域おこし協力隊」等の地域サポート人材事業への応募動機にも大きくわけて2つの傾向がみられる。1つは、「田舎暮らし志向型」、もう1つは「開業・起業志向型」と表現したものである。「田舎暮らし志向型」は、活動目的が漠然としているがゆえに、幅広い分野で柔軟に地域住民と接し、住民の暮らしや生の声中に地域



第1次産業：農業，林業，漁業
第2次産業：鉱業，建設業，製造業
第3次産業：電気・ガス・熱供給・水道業，運輸・通信業，卸売・小売業，飲食店，金融・保険業，不動産業，サービス業，公務(他に分類されないもの)
*: 2005年産業分類に組み替えて集計した。

図1. 総務省統計局
産業別就業者数の推移(1950年～2005年)

の課題やニーズ見出ししていた。一方、「開発・起業型志向」では、自分の目的が早い時期から明確であるために、自己表現を優先するあまり地域との関係を排除してしまう姿勢が懸念されるところがあるが、役場や NPO に拠点を置くことで、地域活動や住民との接点を普段から持つことができた。そして、いずれの場合もまずは「地域に馴染むことから」という姿勢は共通していた。また嵩（2012. ふるさと回帰の現状と課題における報告資料）によると、20～40代の移住希望者の1/3が「半農半X」のライフスタイルを希望しており、新しい分野としての就農や、今まで取り組んできた仕事や経験を生かして自ら起業を志向する割合も増えてきている。このような若者移住の新潮流は、これまでの団塊の世代のふるさと回帰とは異なる展開をみせている。

6. 結果

6. 1 地方創生に向けた高知県の取り組み

地方創生に向けて高知県の取り組みとして政策提言されている。地方創生のためには、中山間地域の創生が不可欠になってくる。そのためには①小さな拠点を応援する仕組みの創設②地域おこし協力隊の制度拡充（任用期間の延長、子育て世帯への配慮）が上げられている。また、都市部と中山間地域の共生を可能とする産業群の育成も必要である。そのためには①中山間農業の複合の経営課の推進②CLTの普及により、木材需要の抜本拡大（オリンピック・パラリンピックでの活用）が上げられている。

6. 2 梶原町の現状と課題

梶原町は高知県の西部に位置し、総面積は236.51㎏、人口3,670人であり、森林が91%を占めている。梶原町は、日本最後の清流四万十川と日本3大カルストの1つである四国カルストなどの自然景観や文化的景観が分布しており、農業と観光の町として位置づけられている。高齢化における人口減少が進んでおり高齢化率は40%を超えている。（図2）

（1）ヒアリング調査

目的：梶原町の現状や町民の思いを知るため

対象：梶原町在住の男女約20名を年代別に調査

日時：平成26年11月11日～14日

項目：林業・農業・水産業とあるがどの産業があれば移住・

定住者が増え住みやすくなるか

梶原町に誇りをもっているか

生活する上でのメリット・デメリット等

（2）ヒアリング結果

町全体に対する意見としては、梶原町に誇りを持ち愛着がある、自然が豊かで人柄・人づきあいが良い、福祉制度が整っており子どもが育てやすい等の意見が上げられた。産業に関しては、働く場所がない、林業・農業がメインになるのでそれに携わる人が増えて欲しい、という意見があった反面、小さいころから農業・林業に親しんでいればメインの産業にすることは可能だが、そうでなければ厳しいという意見もあった。また、後継者もいないので1つの集落で必要な機械を購入するシステムを作りたいという意見もあった。梶原町で職の募集はあるのだが、職種が限られているため応募が少ない現状である。

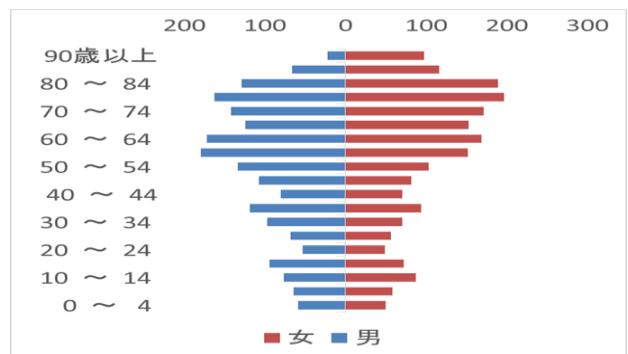


図2. 平成22年の人口ピラミッド

梶原町の年齢区分の人口推移

これらのヒアリングの結果から、まず住める体制があり、農地や山を生かせる政策とある程度の人口がいることでより住みやすく生活しやすくなるのではと考えた。そして、住める体制を「住環境」、農地や山を生かせる政策を「労働環境」としこの2つに注目した。

6. 3 住環境

「家」は集落・地域を構成する重要な要素であり、人が生きていくための「衣食住」を満たす場所であるため、空き家の資源を有効活用し、移住・定住者の受け皿づくりを進め地域の活性化につなげている。そこで住環境の面から梶原町は、空き家や古民家を再利用した「空き家活用促進事業」を行っている。この「空き家活用促進事業」について詳しく知るために、梶原町役場で空き家事業を担当している方にヒアリングを行った。

（1）移住定・定住コーディネーターの方へのヒアリング

目的：空き家活用促進事業の詳細を知るため

対象：役場の空き家事業担当の方

日時：平成 26 年 1 月 16 日

(2) ヒアリング結果

町内にある空き家の数は、平成 26 年 12 月の時点で梶原町全区 156 戸あることがわかった。この事業は梶原町の HP に掲載されており、空き家の写真や詳細情報を見ることができ、空き家は 10 年契約、月 15,000 で借りることができ、平成 26 年 4 月～12 月間での移住・定住相談組数は 94 組あり、このうち県外からの相談組数が 26 組である。そしてこの期間内に 10 組の方が梶原町に移住してきていることがわかった。主な相談内容としては、有機栽培を含む農業をやってみたい、豊かな自然の中でのんびりと暮らしたい、人の温もりを感じられる梶原町に魅力を感じた等があげられる。移住・定住者へのメリットとしては、町が間に入ることにより安心して借りられる、相談窓口やサポート体制により不安の解消（地域行事への参加、地域の方との交流）、住宅利用料が安価等があげられる。

6. 4 労働環境

梶原町の主な産業としては、商工業・林業・農業・畜産業等があげられるがやはり中心となるのは農林業である。林業に関して、梶原町の林業面積は、総面積の 91%を占め、その 73%が人工林である。森林の保有規模は、5ha 以下の小規模経営が大半を占め林地が細分化している。林業の担い手である森林組合や林業者で組織する団体の育成強化を図るとともに、造林、保育から生産まで一貫した施業を積極的に行っている。農業に関しては、各種の補助事業を積極的に導入して、ほ場設備、農場の開設、機械化による省力化など近代化のための農業生産基盤作りを進めている。また、本町の気候や地理等高冷地の特性を生かした雨除施設を利用した米ナス、子ナス、シシトウ、ミョウガを基本作物とした園芸野菜の産地化に努めている。

(1) ヒアリング調査

目的：現在どのような農業（有機栽培）をしているのか調査するため

対象：サラリーマンを経て梶原町に J ターンした環境自立型農場の経営者の方

日時：平成 26 年 11 月 28 日

(2) ヒアリング結果

現在、畜産（牛の繁殖）と土佐甘とう栽培とシイタケ栽培等で生計を立てている。牛を預けているときは甘とうの栽培、

山では地域が残してくれた資源を再利用ししいたけの栽培とこの 3 つの組み合わせることで 1 年中安定的に仕事をする事ができる。畜産に関しては、仔牛を産ませて市に出すのでその時々市の相場によって値段が変わってくるので安定していない部分もあるが、これは甘とうやシイタケにも言えることである。種類のみ栽培する方法はリスクが高く、できるだけ複数の作物を栽培する方がリスク分散につながり、農業経営上好ましい。また、いろいろな情報を得るために異業種の方とも交流をとることが大切である。地元を受け入れられるために 1 番大切なことは、元あった地域文化にふれ、地域の行事に参加し住民の方とコミュニケーションをとることである。農業をする前にまず地域文化に溶け込むことで、横のつながりも強くなる。また地域住民の方も、移住者を受け入れる、迎え入れる姿勢も必要である。

6. 5 有機栽培を目的とした定住における動機づけ

住環境と労働環境の面から共通して有機栽培というワードでできた。このことから、移住者の有機栽培を目的として定住における動機づけの意思の流れ（図 3）、有機栽培への懸念材料（図 4）、懸念材料への対応策（図 5）について整理してみた。

有機栽培を目的とした定住における動機づけ

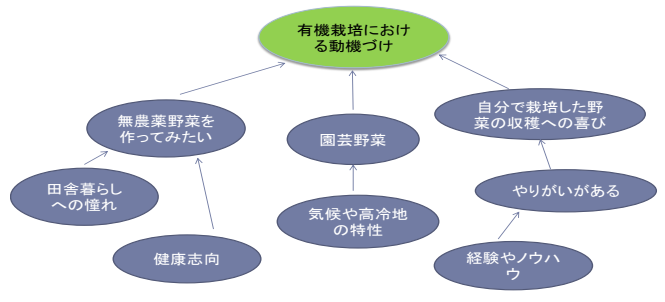


図. 3 有機栽培を目的とした動機づけ

有機栽培における懸念材料

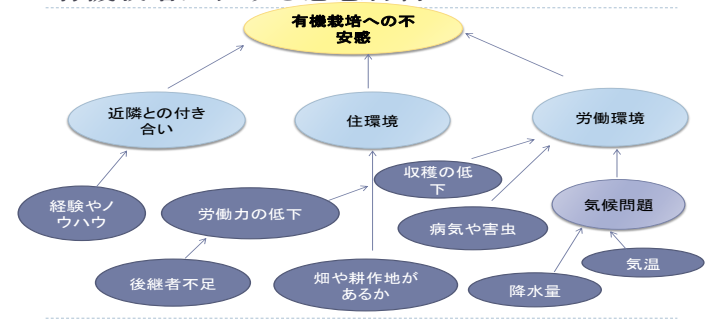


図. 4 有機栽培における懸念材料

懸念材料への対応策

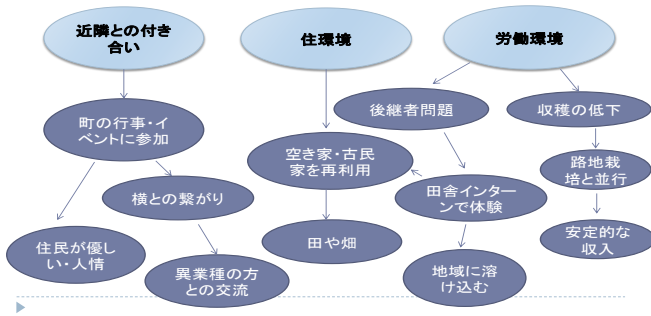


図. 5 懸念材料に対する対応策

6. 6 中山間地域における定住持続要因

移住してくる方は、有機栽培をしたい、自然の中田舎暮らしがしたい等の目的を持つケースが多く、梶原の強みである豊かな自然や人の温かさに魅力を感じていることがわかった。住環境の面では、有機栽培を行うために田や畑つきの家を安価でかりることができ、町が仲介役に入るので移住後も地域の方と交流しコミュニケーションをとることでその土地の文化にふれることができる。また福祉制度が充実しているのも持続要因の1つだと考えられる。そして労働環境の面では、素人でも手をつけやすい露地栽培での農業を行い、安定的な収入を確保するために自分なりのサイクルを考える。地域の方や、異業種の方と交流することで、経験やノウハウを教してもらい信頼関係が生まれることで横の繋がりも強くなると予想される。

7. 考察

梶原町の現状と課題を調査し、移住者の方の実態について考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 現在、梶原町は高齢化や働く場所等が少なく人口減少が進んでいる。人口の流出を防ぐことと働き口の確保が課題となっているが、実際の定住するにあたって福祉制度が整っており子どもを育てやすいなどの福祉の面でのサポートが充実していることがわかった。
- (2) 新しい土地に移住するにあたって、重要となるのは住環境と労働環境である。梶原に移住してくる方々は、豊かな自然や人の温かさといった梶原に魅力を感じ移住してくる人が多い。その中でも農業（有機栽培）をしたいという声が多かった。そこで移住を考えている方の要望と、梶原町の空き家事業により安

価で田や畑つきの家を賃貸できるという点がうまくマッチングしているのではないかと考えられる。

- (3) 地域住民の方も新しくきた移住者を迎え入れる姿勢が大切であり、移住者の方も元あった地域文化や行事にふれ住民の方とコミュニケーションをとることが何より重要である。

8. 移住政策への提言

これらのことから移住してからもよい関係を築いていくためにも、移住するその地域の文化にふれ理解することが大切である。また梶原町の魅力である、横の繋がりを強くすることで信頼関係も生まれると考えられる。そこで、今の空き家の10年契約ではなく、もっと短い1ヶ月～半年契約のお試し住宅を増やすことでもっと手軽に梶原町への移住を考えることができると予想される。また、農業初心者の方専用露地栽培の農業講習会を定期的に関いたり、移住者だけの食事会や座談会を行い、移住してきて良かった点や現在困っている点を聞き今後の政策に生かしていきたいと考える。

9. 今後の課題

他の中山間地域の移住者の方との比較を行い、成功例などを梶原町にも生かせないかを考えるとともに、農地や山をいかに活用する政策についても考えていきたい。

参考文献・URL

- <http://www.pref.kochi.lg.jp/>
- www.town.yusuhara.kochi.jp/
- <http://www.d.pikara.ne.jp/locavo/>
- www.yusuhara-s.com/
- <http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/>
- http://www.soumu.go.jp/main_content/000213563.pdf
- <http://www.yusuhara-iju.jp/life/entry-20.html>
- <http://www.stat.go.jp/index.htm>
- http://www.town.yusuhara.kochi.jp/2010/11/17/koyoukeika_ku.pdf

農山村地域に向かう若者移住の広がり持続性に関する一考察（地域サポート人材導入策に求められる視点） 図司直也

「ふるさと回帰の現状と課題」の報告資料 嵩和雄